

# 中小企業動向調査

この調査は富山県内企業440社を対象に実施し、310社より回答があり、その結果をまとめたものである。

企業の調査資料として、平成27年7月～9月の実績、平成27年8月～12月の見込み、平成28年1月～3月の先行き見通しを集約した概要である。なお、季節調整は行っていない。

調査時期：平成27年9月下旬

	調査対象企業数	有効回答企業数	有効回答率
製 造 業	187	122	65.2%
非 製 造 業	253	188	74.3%
計	440	310	70.5%

日銀が12月14日に公表した、北陸の金融経済月報（2015年12月）によると、「北陸の景気は、回復を続けている。企業の景況感は、先行きについては慎重な見方が増えているものの、足もとは良好な水準にある。

最終需要をみると、個人消費や住宅投資が持ち直しているほか、設備投資は着実に増加している。一方、公共投資は減少傾向にある。

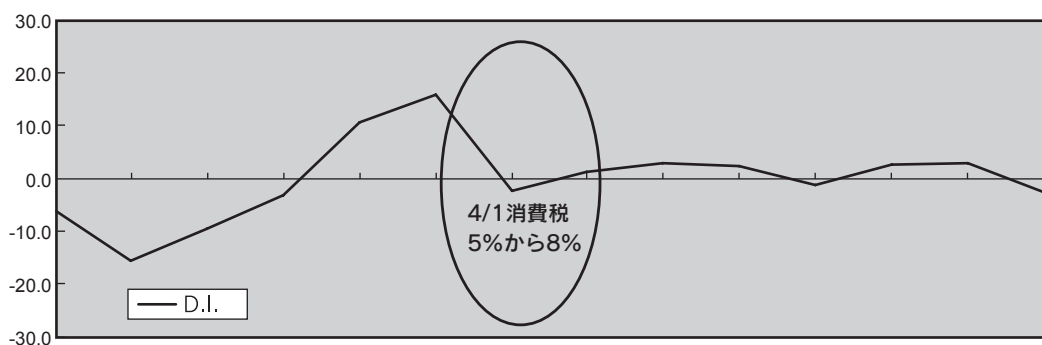
当地製造業の生産は高水準で推移している。業種別にみると、電子部品・デバイスが穏やかに増加している。化学は高水準で推移している。繊維は横ばい圏内の動きとなっている。金属製品は下げ止まっている。はん用・生産用・業務用機械は弱含んでいる。

雇用・所得環境は着実に改善している。」としている。

## I. 企業概況

企業概況の推移……（全産業）

期別 種別	（%）														見込	予測
	24年				25年				26年				27年		28年	
	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月		
良 い	15.7	10.4	14.2	13.7	24.3	26.7	15.5	17.5	17.0	19.4	16.2	14.3	13.3	9.4		
普 通	62.5	63.7	62.2	69.6	62.0	62.6	66.5	66.1	68.9	63.5	66.5	74.0	76.4	78.6		
悪 い	21.8	25.9	23.6	16.7	13.8	10.7	17.9	16.3	14.1	17.1	17.3	11.7	10.4	12.0		
D . I .	-6.1	-15.5	-9.4	-3.1	10.5	16.0	-2.4	1.2	2.9	2.3	-1.1	2.6	2.9	-2.6		

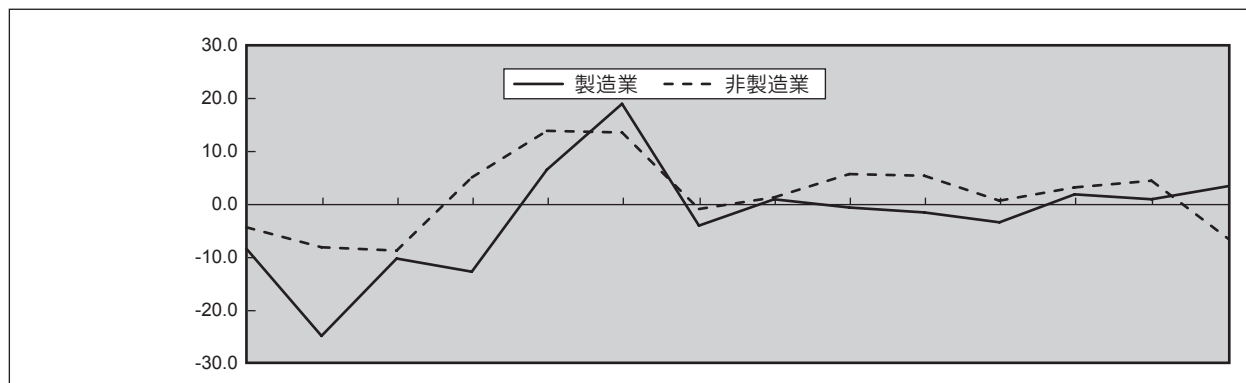


企業概況の推移……（うち製造業のみ）

		(%)														見込	予測	
種別	期別	24年				25年				26年				27年				28年
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
良	い	13.6	6.2	16.8	10.5	21.6	28.9	17.6	19.4	15.3	18.8	16.5	14.6	12.2	13.0			
普	通	64.4	62.8	56.0	66.2	63.2	61.2	60.5	62.0	68.5	60.7	63.3	72.4	76.4	77.2			
悪	い	22.0	31.0	27.2	23.3	15.2	9.9	21.8	18.5	16.2	20.5	20.2	13.0	11.4	9.8			
D . I .		-8.5	-24.8	-10.4	-12.8	6.4	19.0	-4.2	0.9	-0.9	-1.8	-3.7	1.6	0.8	3.3			

企業概況の推移……（うち非製造業のみ）

		(%)														見込	予測	
種別	期別	24年				25年				26年				27年				28年
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月			
良	い	17.5	13.7	12.0	16.3	26.5	24.8	13.6	16.1	18.2	19.9	16.0	14.1	14.0	7.0			
普	通	60.8	64.4	67.3	72.5	60.9	63.8	72.0	69.1	69.2	65.6	68.7	75.1	76.3	79.6			
悪	い	21.7	21.9	20.7	11.3	12.6	11.3	14.4	14.8	12.6	14.6	15.3	10.8	9.7	13.4			
D . I .		-4.2	-8.2	-8.7	5.0	13.9	13.5	-0.8	1.3	5.7	5.3	0.6	3.2	4.3	-6.5			



- (1) 富山県内の中小企業の業況を全産業で見ると、業況判断指数D.I.「良い－悪い」の27年7～9月期実績は2.6と前期比3.7ポイント改善した。

先行きについて、27年10～12月期のD.I.は2.9と今期横ばい、28年1～3月期のD.I.は▲2.6と悪化予想となっている。

前回調査の予想どおり、今期は改善となっている。しかし、年明けは悪化予想であり、不安な状況である。

- (2) 業況判断指数D.I.の27年7～9月期を製造業と非製造業に分けてみると、製造業は前期より5.3ポイント改善、非製造業は前期より2.6ポイント改善となった。

製造業、非製造業とも業況は良くなってきている。しかし、先行き予想では、非製造業は悪化予想となっている。

## II. 売上高状況

売上高状況

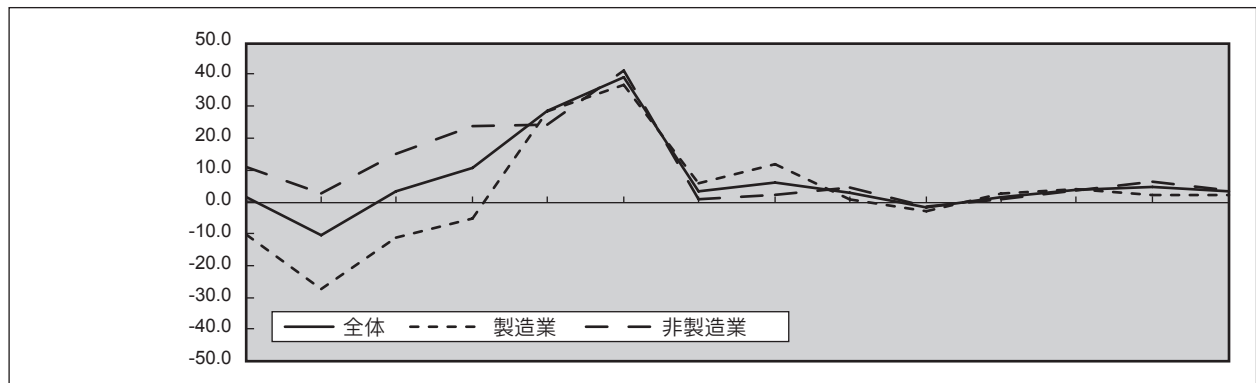
		(%)													見込	予測			
種別	期別	24年				25年				26年				27年				28年	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	見込	予測		
増加		28.4	22.3	30.6	32.3	43.1	53.0	29.9	31.4	30.0	28.3	28.2	28.0	23.5	17.5				
横ばい		44.7	45.2	42.1	45.9	39.9	33.2	43.4	43.3	43.1	41.5	45.1	47.7	57.7	68.4				
減少		26.9	32.6	27.4	21.7	17.5	13.8	26.7	25.3	27.0	30.2	26.8	24.2	18.7	14.2				
D.I.		1.5	-10.3	3.2	10.5	28.6	39.3	3.2	6.1	2.9	-1.9	1.5	3.9	4.8	3.2				

売上高状況（うち製造業のみ）

		(%)													見込	予測			
種別	期別	24年				25年				26年				27年				28年	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	見込	予測		
増加		24.5	12.3	22.8	25.3	46.0	53.3	32.2	35.2	29.2	31.3	31.5	30.1	22.7	16.2				
横ばい		40.7	48.2	43.3	44.0	36.5	30.3	41.5	41.7	42.5	34.8	39.6	43.9	56.9	69.9				
減少		34.8	39.5	33.8	30.6	17.5	16.4	26.3	23.1	28.3	34.0	28.8	26.1	20.3	13.8				
D.I.		-10.2	-27.2	-11.0	-5.2	28.6	36.9	5.9	12.0	0.9	-2.7	2.7	4.1	2.4	2.4				

売上高状況（うち非製造業のみ）

		(%)													見込	予測			
種別	期別	24年				25年				26年				27年				28年	
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	見込	予測		
増加		31.5	30.0	37.1	38.2	40.8	52.9	27.8	28.7	30.5	26.2	26.0	26.7	24.1	18.1				
横ばい		47.9	42.9	41.1	47.5	42.8	35.7	45.1	44.4	43.5	46.4	48.8	50.3	58.3	67.4				
減少		20.6	27.2	21.8	14.4	16.4	11.4	27.1	26.8	26.1	27.4	25.3	23.0	17.6	14.4				
D.I.		11.0	2.7	15.2	23.8	24.3	41.4	0.8	2.0	4.3	-1.3	0.6	3.7	6.4	3.7				



- (1) 売上高は、前年同期比較での増減について回答を受けている項目である。今回調査の、7～9月D.I.は、前期より2.4ポイント改善の回答となった。  
 売上高状況D.I.は每期改善しており、良好な推移となっている。  
 先行きについてのD.I.は、28年1～3月は今期比やや悪化予想となっている。
- (2) 売上高状況D.I.を製造業と非製造業に分けると、今期はどちらも前期比改善となっている。  
 先行きについて、製造業はやや悪化予想であるが、プラスポイントと増加との回答が多い状況となっている。

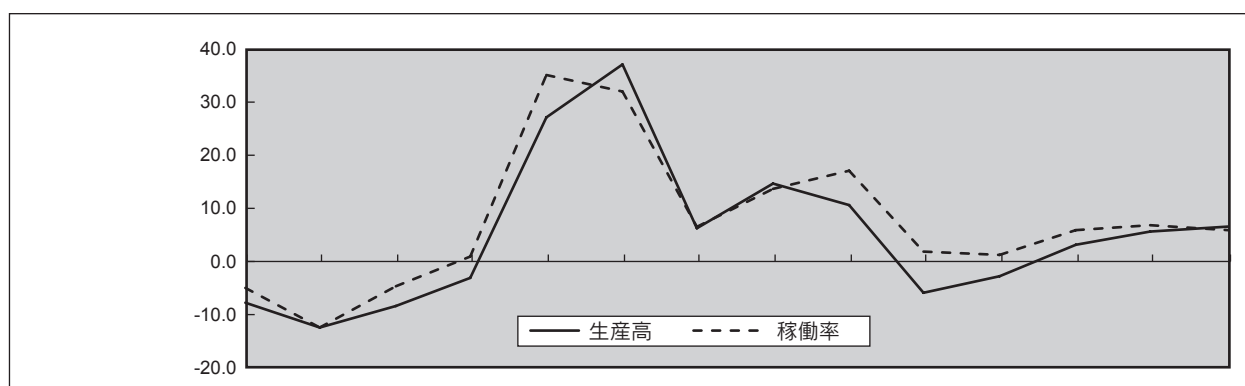
### Ⅲ. 生産高・稼働率状況

生産高状況（製造業のみ）

		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
20%以上増加	5.1	0.9	5.5	3.9	7.4	13.6	3.5	5.7	1.8	4.2	5.7	3.2	1.6	1.6		
20%未満増加	20.5	19.6	17.2	19.5	33.1	38.1	27.8	27.9	29.2	24.6	21.9	24.8	20.0	15.2		
横ばい状況	41.0	46.4	46.1	50.0	46.3	33.9	43.5	47.5	48.7	36.4	41.9	17.2	62.4	72.8		
20%未満減少	29.1	24.1	21.9	24.2	11.6	13.6	23.5	17.2	17.7	28.0	27.6	21.6	15.2	10.4		
20%以上減少	4.3	8.9	9.4	2.3	1.7	0.8	1.7	1.6	2.7	6.8	2.8	3.2	0.8	0.0		
D . I .	-7.7	-12.5	-8.6	-3.1	27.3	37.3	6.1	14.8	10.6	-5.9	-2.9	3.2	5.6	6.4		

稼働率（製造業のみ）

		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
上昇	6.1	0.9	4.7	4.0	8.6	12.9	3.6	5.1	3.8	3.6	5.1	2.5	2.5	1.7		
やや上昇	10.2	17.9	16.5	20.0	33.6	33.6	25.0	26.5	29.2	25.2	21.2	24.6	18.2	14.9		
横ばい	42.1	50.0	52.8	52.8	50.9	38.8	49.1	50.4	50.9	44.1	48.5	51.6	65.3	72.7		
やや下降	27.2	23.2	15.7	20.0	5.2	14.7	20.5	17.1	13.2	21.6	24.2	18.0	12.4	9.9		
下降	4.4	8.0	10.2	3.2	1.7	0.0	1.8	0.9	2.8	5.4	1.0	3.3	1.7	0.8		
D . I .	-5.3	-12.5	-4.7	0.8	35.3	31.9	6.3	13.7	17.0	1.8	1.0	5.7	6.6	5.8		

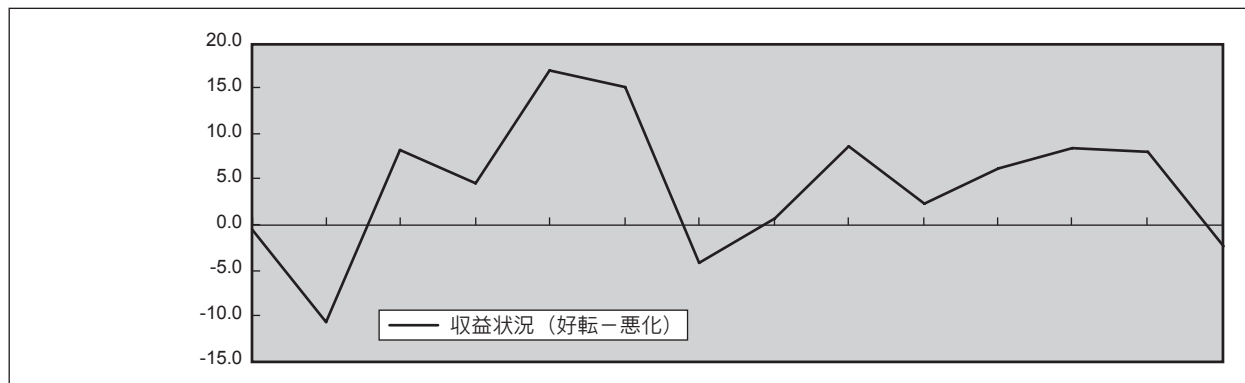


- 生産高・稼働率ともに売上高と同様、前年同期比での増減について回答を受けている項目である。製造業の生産高状況D.I.は3.2となり、前期比6.1ポイント改善した。売上高同様に、生産高は改善傾向であり、良好な推移となっている。
- 稼働率についても、今回調査では、前期より4.7ポイント改善の回答であった。先行きについては、売上高、生産高同様に改善予想となっている。

## IV. 収益状況

収益状況（好転－悪化）

期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月
好転	20.8	15.8	25.2	19.3	28.5	29.9	14.6	20.8	23.8	23.2	23.2	22.8	18.0	10.0
横ばい	58.1	57.9	57.9	66.1	60.1	55.3	66.8	59.2	61.0	55.9	59.9	62.7	72.0	77.8
悪化	21.1	26.3	16.9	14.6	11.4	14.8	18.6	20.0	15.2	20.9	16.9	14.5	10.0	12.2
D.I.	-0.4	-10.5	8.3	4.7	17.1	15.2	-4.0	0.8	8.7	2.3	6.3	8.4	8.0	-2.3



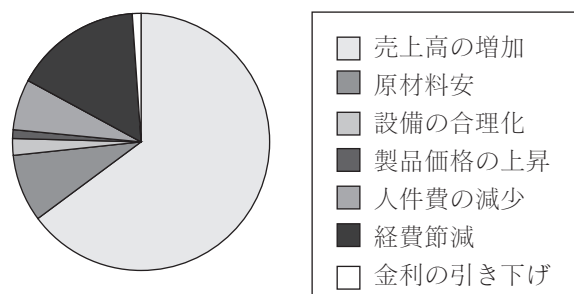
好転理由

期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月
売上高の増加	70.8	61.8	64.5	72.5	82.1	83.0	68.6	74.0	69.8	70.3	58.8	64.9	70.4	71.8
原材料安	4.6	1.8	4.3	0.0	1.1	0.0	3.9	1.3	4.7	2.7	3.8	8.5	7.0	7.7
設備の合理化	3.1	1.8	3.2	4.3	3.2	2.3	5.9	3.9	5.8	6.8	7.5	2.1	4.2	0.0
製品価格の上昇	3.1	5.5	4.3	5.8	2.1	0.0	9.8	9.1	4.7	1.4	6.3	1.1	2.8	0.0
人件費の減少	0.0	7.3	4.3	4.3	4.2	2.3	2.0	2.6	4.7	4.1	3.8	6.4	4.2	2.6
経費節減	16.9	18.2	18.3	13.0	7.4	11.4	5.9	9.1	9.3	10.8	17.5	16.0	11.3	17.9
金利の引き下げ	1.5	3.6	1.1	0.0	0.0	1.1	3.9	0.0	1.2	4.1	2.5	1.1	0.0	0.0

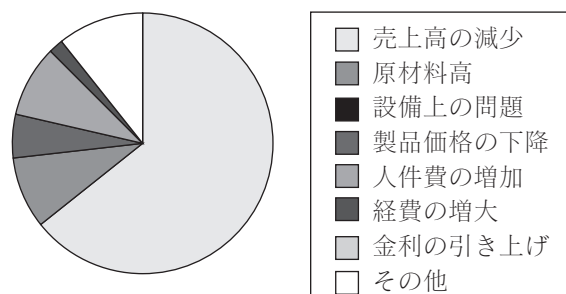
悪化理由

期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年
	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月	4～ 6月	7～ 9月	10～ 12月	1～ 3月
売上高の減少	51.3	66.3	62.5	48.4	53.5	55.4	51.4	51.4	52.5	58.8	56.3	64.3	65.9	75.0
原材料高	10.3	10.8	12.5	19.4	20.9	10.7	18.6	24.3	16.9	8.8	12.5	8.9	7.3	6.8
設備上の問題	3.8	1.2	0.0	6.5	0.0	0.0	1.4	1.4	3.4	4.4	4.7	0.0	2.4	0.0
製品価格の下降	11.5	4.8	7.8	4.8	7.0	8.9	5.7	4.3	8.5	4.4	4.7	5.4	7.3	4.5
経費の増大	12.8	9.6	9.4	6.5	14.0	14.3	11.4	11.4	5.1	17.6	7.8	8.9	9.8	4.5
人件費の増加	2.6	2.4	3.1	8.1	0.0	3.6	8.6	4.3	6.8	0.0	0.0	1.8	4.9	4.5
金利の引き上げ	0.0	0.0	1.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	7.7	4.8	3.1	4.8	4.7	7.1	2.9	2.9	5.1	4.4	14.1	10.7	2.4	4.5

好転理由



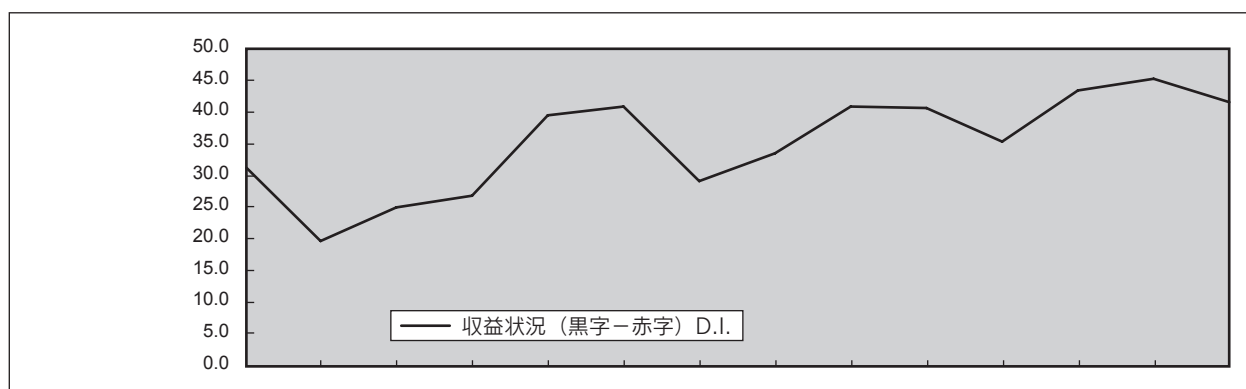
悪化理由



- (1) 収益状況「好転－悪化」D.I.は、前期比2.1ポイント改善し、8.4となった。  
 先行きの10～12月期D.I.は8.0と横ばいであるが、28年1～3月期はマイナスポイントとなり悪化予想となっている。
- (2) 今期収益が好転した理由は、「売上高の増加」が64.9%、次に「経費節減」16.0%「原材料安」8.5%の順であった。  
 前回調査時より、「売上高の増加」「原材料安」を理由ポイントが増加している。  
 「設備の合理化」「製品価格の上昇」とするポイントは減少となった。
- (3) 収益が悪化した理由では、「売上高の減少」64.3%、「原材料高」8.9%、「経費の増大」8.9%となっている。  
 「原材料高」「設備上の問題」とする理由は、前期比減少している。

収益状況（黒字－償却後赤字）

種別	期別	(%)														
		24年				25年				26年				27年		28年
		10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
黒字		46.7	39.0	44.3	42.5	53.8	53.5	45.1	49.4	52.8	52.7	50.6	54.1	49.8	48.2	
収支トントン		37.7	41.7	36.3	41.8	31.8	33.7	38.6	34.5	35.1	35.2	34.2	35.1	45.6	44.9	
償却後赤字		15.6	19.3	19.4	15.8	14.4	12.8	16.3	16.1	12.1	12.1	15.2	10.8	4.6	6.9	
D . I .		31.1	19.7	24.9	26.7	39.4	40.7	28.9	33.3	40.8	40.6	35.3	43.3	45.2	41.3	



- (4) 収益状況「黒字－償却後赤字」D.I.は43.3となり、前期比8ポイント改善となった。  
 収益状況は、「黒字」との回答が半数以上であり、安定推移となっている。  
 償却後赤字の回答は、10.8%であり、先行きについても減少予想となっている。  
 先行きについては、黒字の回答が、50%をきっており、やや不安な状況となっている。

## V. 製品在庫水準

製品在庫水準

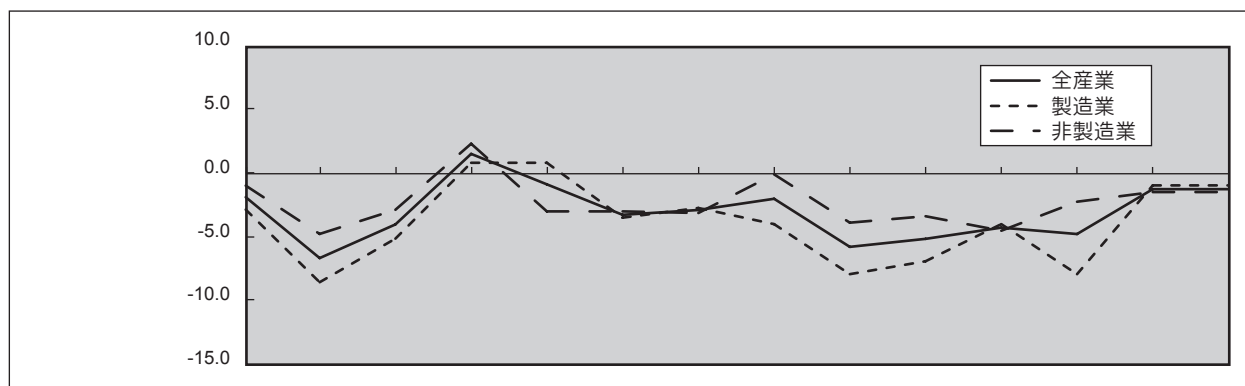
		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
不足	2.9	0.9	3.6	5.2	4.6	3.2	2.9	4.4	1.5	2.6	2.3	3.2	2.8	2.4		
適正	92.3	91.5	88.8	91.3	89.9	90.3	91.3	89.2	91.3	89.7	91.1	88.9	93.2	94.0		
過剰	4.8	7.5	7.6	3.6	5.5	6.5	5.8	6.4	7.3	7.7	6.5	7.9	4.0	3.6		
D . I .	-1.9	-6.6	-4.0	1.6	-0.9	-3.2	-2.9	-2.0	-5.8	-5.2	-4.2	-4.7	-1.2	-1.2		

製品在庫水準（うち製造業のみ）

		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
不足	2.8	1.9	5.1	6.3	5.2	3.5	4.5	5.0	2.0	3.9	3.9	4.3	4.3	3.5		
適正	91.7	87.7	84.7	88.3	90.4	89.4	88.4	86.0	88.2	85.3	88.3	83.6	90.5	92.1		
過剰	5.5	10.4	10.2	5.5	4.3	7.1	7.1	9.0	9.8	10.8	7.8	12.1	5.2	4.4		
D . I .	-2.8	-8.5	-5.1	0.8	0.9	-3.5	-2.7	-4.0	-7.8	-6.9	-3.9	-7.8	-0.9	-0.9		

製品在庫水準（うち非製造業のみ）

		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
不足	3.0	0.0	1.9	4.0	3.9	2.9	1.0	3.9	1.0	1.1	0.9	2.2	1.5	1.5		
適正	93.0	95.3	93.4	94.4	89.2	91.3	94.8	92.2	94.2	94.6	93.7	93.4	95.6	95.6		
過剰	4.0	4.7	4.7	1.6	6.9	5.8	4.2	3.9	4.8	4.3	5.4	4.4	3.0	3.0		
D . I .	-1.0	-4.7	-2.8	2.4	-2.9	-2.9	-3.1	0.0	-3.8	-3.3	-4.5	-2.2	-1.5	-1.5		



(1) 全産業の製品在庫水準「不足-過剰」D.I.は、27年7~9月期は▲4.7となり、前期比0.5ポイント悪化となり、在庫は過剰との回答が高い回答となっている。

先行きについては、改善予想であるが、まだ、過剰予想となっている。

(2) 業種別の製造業では「繊維」「プラスチック」「木材業」が在庫過剰のポイントが多い。

非製造業では、「鋼材建材販売」「運送業」「卸売業」が在庫過剰と回答している。

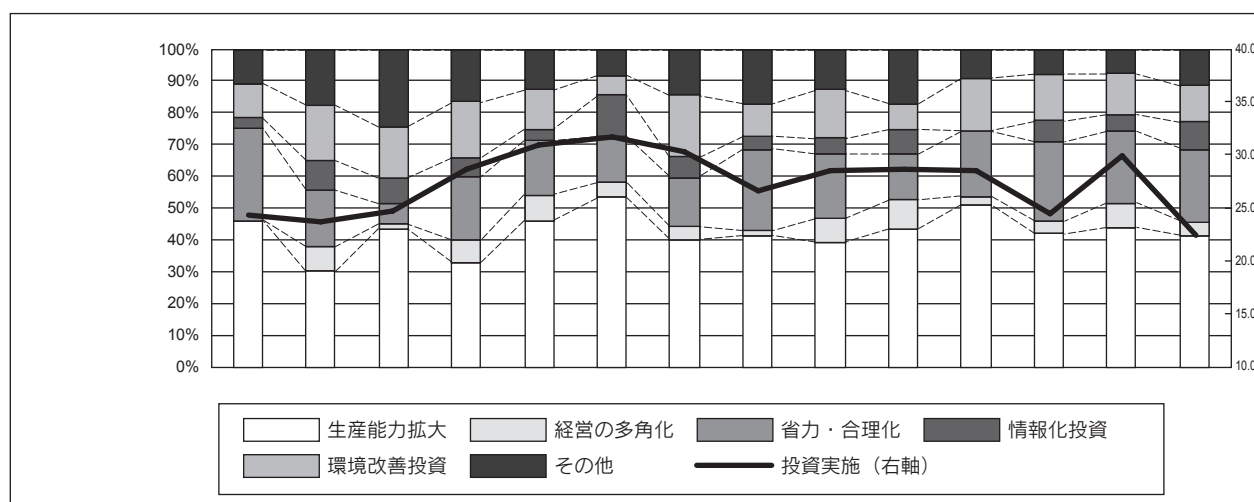
## VI. 設備投資動向

設備投資の有無

期別 種別	(%)														見込	予測
	24年		25年				26年				27年				28年	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
投資実施	24.4	23.7	24.7	28.7	31.0	31.8	30.3	26.7	28.5	28.7	28.5	24.5	29.9	22.5		
投資せず	75.6	76.3	75.3	71.3	69.0	68.2	69.7	73.3	71.5	71.3	71.5	75.5	70.1	77.5		

設備投資の目的（実施先について）

	(%)													
生産能力拡大	46.2	30.2	39.1	32.9	46.0	53.6	40.3	41.4	39.2	43.4	51.3	42.1	44.1	41.4
経営の多角化	0.0	7.9	1.4	7.1	8.0	4.8	3.9	1.4	7.6	9.2	2.6	3.9	7.5	4.3
省力・合理化	29.2	17.5	5.9	20.0	17.2	14.3	15.6	25.7	20.3	14.5	20.5	25.0	22.6	22.9
情報化投資	3.1	9.5	7.2	5.9	3.4	13.1	6.5	4.3	5.1	7.9	0.0	6.6	5.4	8.6
環境改善投資	10.8	17.5	14.5	17.6	12.6	6.0	19.5	10.0	15.2	7.9	16.7	14.5	12.9	11.4
その他	10.8	17.5	21.7	16.5	12.6	8.3	14.3	17.1	12.7	17.1	9.0	7.9	7.5	11.4



- (1) 今回調査では、設備投資を実施した企業は全回答先の24.5%と、前回調査時より4ポイント減少した。しかし、先行きの10~12月には約30%が設備を行う予想となっている。  
設備投資の目的別では、「生産能力拡大」、次に「省力合理化」「環境改善投資」の順に目的として上がっている。

- (2) 業種別で、設備投資をしたとするポイントの高いのは、製造業では「電子部品製造」「繊維」であった。  
非製造業では、「不動産」「その他サービス」が高いポイントであった。  
「医薬品製造」「プラスチック製品製造」の設備投資企業は減少傾向にある。

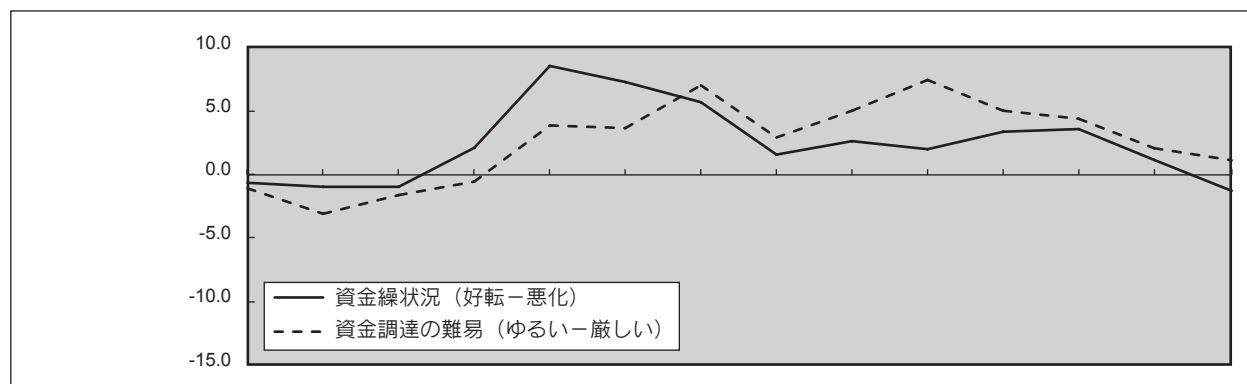


## VII. 資金繰り状況

資金繰り状況（好転－悪化）

(%) 見込 予測

期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月
好転	9.5	8.6	10.1	8.8	13.9	14.1	10.4	10.0	7.9	9.5	12.4	10.3	8.1	5.8
変わらず	80.3	81.6	78.8	84.4	80.8	79.1	84.9	81.6	86.6	83.0	78.5	82.9	84.8	87.1
悪化	10.2	9.8	11.2	6.8	5.3	6.8	4.8	8.4	5.4	7.6	9.1	6.8	7.1	7.1
D . I .	-0.8	-1.1	-1.1	2.0	8.5	7.2	5.6	1.5	2.5	1.9	3.3	3.5	1.0	-1.3



資金調達の難易（ゆるい－厳しい）

(%) 見込 予測

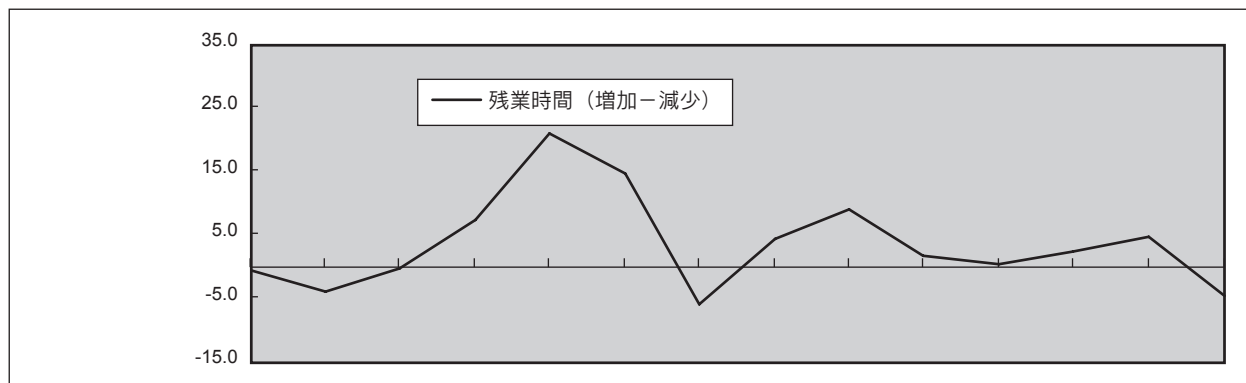
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月
ゆるい	11.3	11.7	11.4	11.1	14.8	14.3	14.6	11.2	13.1	13.6	13.2	11.3	10.3	9.3
厳しくない	76.3	73.4	75.3	77.1	74.2	74.8	77.7	80.3	78.7	80.2	78.5	81.7	81.3	82.3
厳しい	12.5	14.8	13.3	11.8	11.1	10.9	7.7	8.4	8.2	6.2	8.3	7.0	8.3	8.3
D . I .	-1.2	-3.1	-1.8	-0.7	3.7	3.5	6.9	2.8	4.9	7.4	4.9	4.3	2.0	1.0

- (1) 資金繰り状況D.I.「好転－悪化」実績は3.5となり、前期比0.2ポイント改善となった。  
資金繰り状況のポイントは、「好転」と「変わらず」で90%以上で推移しており、やや安定しているとみられる。  
先行きについてのD.I.はマイナスポイントの予想であり、悪化が懸念される。
- (2) 資金調達の難易D.I.は、4.3となり、前期比悪化となっている。  
先行きについては、更に悪化予想であり、資金調達は厳しい状況と予想している。  
業種別では、製造業の「医薬品製造」「出版印刷紙加工」が厳しいとのポイントが高く  
非製造業では、「自動車販売」「不動産」のポイントが高くなっている。

## VIII. 労務事情

残業時間

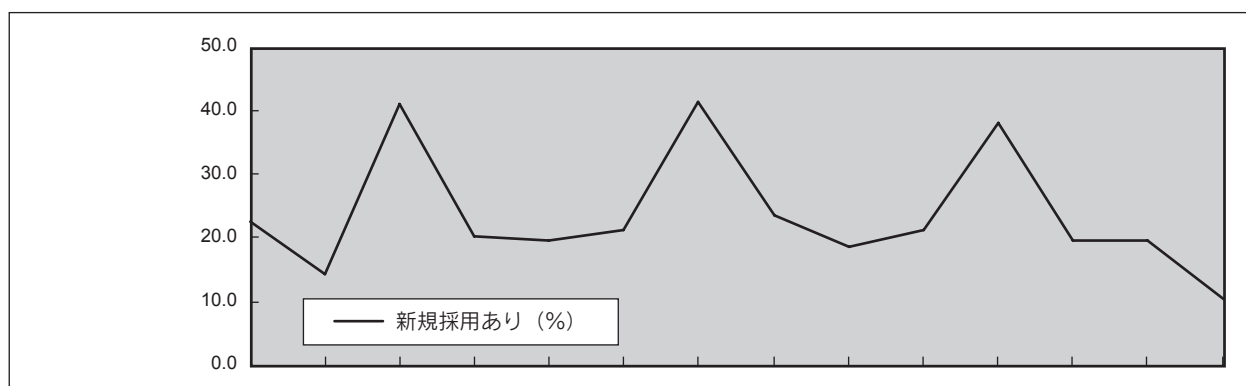
		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
増加	12.7	12.0	13.3	15.4	26.3	23.6	8.8	13.1	17.5	13.9	11.5	13.7	13.1	6.7		
横ばい	73.7	71.8	73.0	76.6	68.6	67.5	76.8	78.1	74.1	73.9	77.5	75.0	78.4	82.0		
減少	13.6	16.2	13.7	8.1	5.1	8.9	14.5	8.9	8.4	12.2	11.1	11.3	8.5	11.3		
D.I.	-0.8	-4.1	-0.4	7.3	21.2	14.6	-5.7	4.2	9.1	1.7	0.4	2.5	4.6	-4.6		



- (1) 残業時間D.I.は27年7~9月期2.5となり、前期比2.1ポイントか増加した。残業時間は、前期まで減少傾向となっていたが、今回調査時より増加となっている。先行きについては、10~12月期は増加予想であるが、28年は減少予想となっている。

新規採用実績(採用あり：%) ※常用・臨時合算

		(%)													見込	予測
期別 種別	24年	25年				26年				27年				28年		
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	7~ 9月	10~ 12月	1~ 3月		
全産業	22.6	14.3	40.9	20.3	19.6	21.2	41.5	23.4	18.5	21.2	38.0	19.6	19.6	10.3		
(うち製造業)	16.1	13.6	40.2	20.0	18.1	23.8	45.5	25.9	23.7	20.7	40.9	22.8	22.0	11.4		
(うち非製造業)	27.9	14.9	41.4	20.5	20.9	19.0	37.9	21.6	14.8	21.6	36.0	17.6	18.1	9.6		

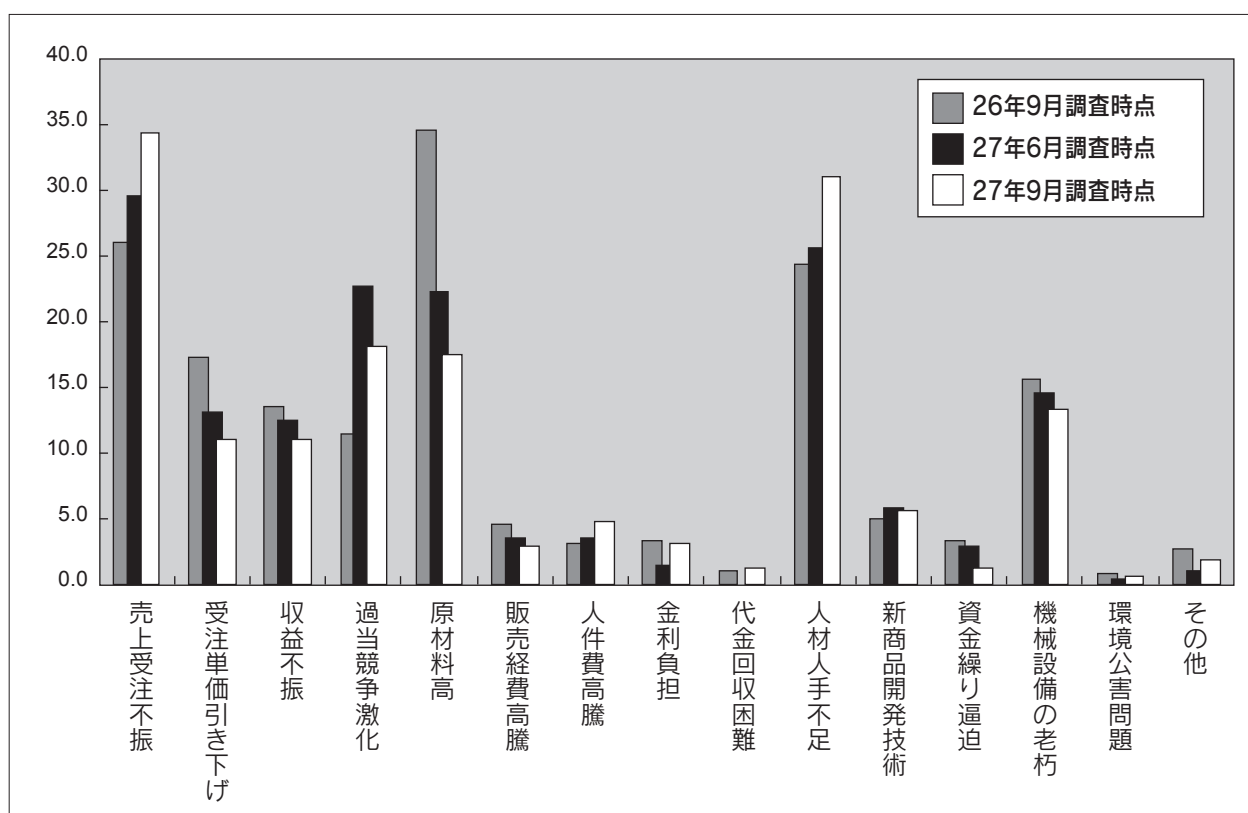


- (2) 新規採用集計は、常用雇用・臨時雇用合算で集計している。集計を見ると、前年同期に比べ、やや減少となっている。業種別では、非製造業の減少ポイントが多い。先行きについても、採用ポイントは前年同期に比べ採用企業比率は減少している。

## IX. 当面の経営上の問題点

(%：複数回答あり)

	26年9月 (前年同期)	27年6月 (前回)	27年9月 (今回)	前回比増減		
				(うち製造業)	(うち非製造業)	
売上受注不振	26.0	29.6	34.2	(37.7)	(31.9)	4.6
受注単価引き下げ	17.2	13.1	11.0	(13.9)	(9.0)	-2.1
収益不振	13.4	12.4	11.0	(13.1)	(9.6)	-1.4
過当競争激化	11.5	22.6	18.1	(11.5)	(22.3)	-4.5
原材料高	34.4	22.3	17.4	(21.3)	(14.9)	-4.9
販売経費高騰	4.6	3.6	2.9	(0.8)	(4.3)	-0.7
人件費高騰	3.1	3.6	4.8	(4.9)	(4.8)	1.2
金利負担	3.4	1.5	3.2	(3.3)	(3.2)	1.7
代金回収困難	1.1	0.0	1.3	(0.0)	(2.1)	1.3
人材人手不足	24.4	25.5	31.0	(22.1)	(36.7)	5.5
新商品開発技術	5.0	5.8	5.5	(12.3)	(1.1)	-0.3
資金繰り逼迫	3.4	2.9	1.3	(2.5)	(0.5)	-1.6
機械設備の老朽	15.6	14.6	13.2	(15.6)	(11.7)	-1.4
環境公害問題	0.8	0.4	0.6	(0.8)	(0.5)	0.2
その他	2.7	1.1	1.9	(2.5)	(0.6)	0.8



- 今回の調査の全産業での当面の経営上の問題点をみると、①売上受注不振34.2%（前期比+4.6ポイント）、②人材人手不足31.0%（前期比+5.5ポイント）③過当競争激化18.1%（前期比▲4.5ポイント）の順になっている。
- 今回調査では、前期比最もポイントが高く変化したのは「原材料高」となった。  
「原材料高」を問題点とする企業が減少している。
- 問題点の「売上受注不振」が高い業種は、「高岡銅器」「窯業土石」となっている。「人材人手不足」は「医療福祉」「出版印刷紙加工」「宿泊業」であった。  
「過当競争激化」では、「鋼材建材販売」「機械工具販売」「不動産業」となり、「収益不振」では、「繊維業」、「受注単価引下」は「金属製品製造」が高いポイントとなっている。

## X. 北陸新幹線開通による事業への影響について

平成27年3月に北陸新幹線が開通した。この影響について、開通前の1～3月との比較開業後の4～9月との比較見込み、今後の予想について、アンケートを行った結果である。

項 目		見込 予測 (%)		
		27年7～9月	27年10～12月	28年1～3月
売 上 高	好 転	5.4	4.4	3.4
	悪 化	2.4	2.4	2.7
	影響なし	92.2	93.2	93.9
営 業 利 益	好 転	5.5	4.4	3.1
	悪 化	2.4	2.4	3.4
	影響なし	92.1	93.2	93.5

- (1) 売上高に影響があった企業は7.8%あり、売上が好転したとする企業が、悪化したとする企業より多かった。  
先行きについても、同様の予想となっている。
- (2) 営業利益についても、売上高に影響があった企業と同じく、7.9%の企業が影響があったと回答があった。

# 総 評

## I. 製造業

### (織 維)

今回の調査では「売上受注不振」「収益不振」が経営上の問題点として高くなった。業況判断指数、売上高状況は先行き悪化を予想しており、厳しい状況とみえる。

### (医 薬 品)

今回の調査では、業況判断指数は改善しており、先行きも改善予想となっている。また、回答企業の30%以上が設備投資を行っていた。目的は「生産販売能力拡大」となっている。

### (機械工業)

機械工業の生産指数は、減少しており、当行調査の業況判断指数も、前期比やや悪化となっている。先行きについても、悪化予想であり、経営上の問題点として、「売上受注不振」「原材料高」とするポイントが上がっている。

### (電子部品)

今回調査では、業況判断指数と売上高状況指数、収益状況指数は、前期比悪化となっており、売上高指数は先行きも悪化予想となっている。経営上の問題点では「売上受注不振」が多く、売り上げ増加が見込めないとの回答となっている。

### (プラスチック)

売上高状況指数は、12月までは増加予想であるが、1月から3月は悪化を予想している。

新設住宅着工数は前年比増加しており、これに伴う住宅用商品の需要増加が影響していると思われる。

### (アルミ製品)

当行調査の、業況判断指数は、悪化と改善が每期逆転している。今回は前期比改善となった。先行きについては、改善予想であり、売上高状況も改善予想となっている。

新設住宅着工戸数は前年比増加となっており、売上受注増加が期待される。

### (木 材 業)

業況判断指数は、年末に向けて改善となるが、先行きの1月から3月は悪化を予想している。新設住宅着工戸数は前年比増加となっているが、木造住宅ではまだ減少しており、木材の需要は大幅な増加にはなっていないように思われる。

### (木工・建具)

富山県内の住宅新設着工戸数は増加してきており、業況判断指数は改善している。しかし、経営上の問題点として「売上受注不振」「原材料高」が上がっている。

## II. 非製造業

### (土 木)

今年度の公共事業体の発注は大幅に減少しており、公共工事請負金額は4～9月期の前年同期比では32.8%減少している。当行調査では、業況判断指数、売上高状況指数は先行きについて悪化していく予想となっている。

### (建 築 業)

当行調査の業況判断指数では、今回は前期比やや改善となったが、先行きの1月から3月は大幅に悪化すると予想している。経営上の問題点として「人材人手不足」を回答企業の半数近くがあげており、建築工事への対応が懸念される。

### (自動車販売)

富山県の27年7～9月の新車販売台数(軽自動車を除く)では前年同期比減少となった。軽自動車も減少となっている。今回の調査では経営上の問題点として「売上受注不振」「収益不振」が高いポイントとなっている。

### (運 送 業)

今回の調査で、経営上の問題点として「人材人手不足」の回答が60%と最も高くなった。全日本トラック協会の速報では、「軽油価格の下落が利益に好影響となったが、ドライバー不足で影響が見られない事業者もいる。」となっている。

### (宿 泊 業)

業況判断指数、売上高状況指数ともに、今期も前期比大幅に改善となっている。先行きも改善予想となっており、北陸新幹線開業に伴う、観光宿泊客の増加継続を期待したい。

### (百貨店・スーパー・小売)

27年7～9月期の売上高は前年同期比増加となっている。商品別では家具以外は、前年比増加しており、増加傾向にある。当行調査では、先行き売上高は改善予想となっているが、まだ「減少」するとの回答が多い。

### (医療福祉関連)

当行調査の売上高状況、業況は前期と変わらず安定している。

経営上の問題点では、「人材人手不足」と「人件費高騰」となり、問題解消できず依然高いポイントとなっている。